

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き

■ 概況

県内景気は、輸出を中心に緩やかな回復が続いているが、設備投資や個人消費が低迷しているため、全体としては力強さに欠ける状況にある。先行きについては、政策効果の一巡や厳しい雇用・所得環境が続くことなどから本格的な回復には至らないとの見方が多い。

千葉経済センターの「千葉県企業経営動向調査」（10年1月実施）によると、09年10～12月期の業況判断B SI（全産業）は▲8・0と前回（▲8・8）比小幅改善し、3期連続で改善した。もつとも、水準は12期連続で「悪化」超となお低い。

個人消費は、乗用車など一部では政策効果による販売増が見られるが、全体としては盛り上がりには乏しい状態にある。県内小売業の年末年始の商戦は、節約志向の強まりを映じた、内食化や巣ごもり傾向から、クリスマスケーキやおせち料理の販売は好調であったが、衣料品や高額品の販売は不振が続いている。自動車販売業界では、エコカー減税効果によりハイブリッド車など環境対応車を中心に販売が好調で、乗用車新車登録台数（含む軽）は09年10月以降、3か月連続で前年比2ケタ増となった。先行きについても、ハイブリッド車が牽引役となり堅調に推移するとの見方が多い。

県内新設住宅着工戸数（09年10～12月期）は、景気悪化によりマンション等の民間住宅投資が低迷していることなどから前年同期比▲31・7%と大幅に減少した。

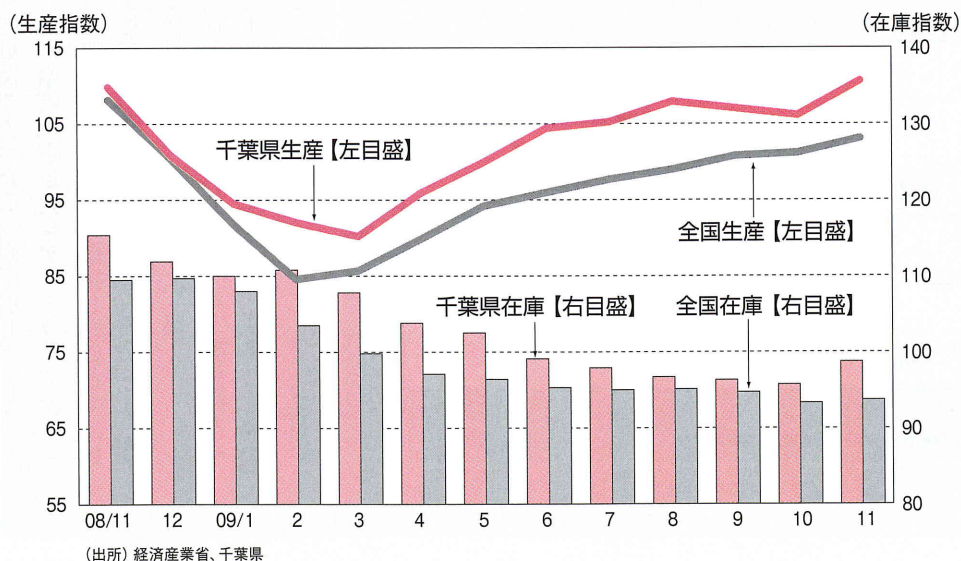
千葉県鉱工業生産指数（季調値）は、09年3月の75・1を底として、8月の92・8まで5か月連続で上昇したが、在庫復元のための生産の回復が一服したことなどにより、9月：91・9↓10月：91・0と2か月連続で低下した。

09年度設備投資計画額（全産業ベース、10年1月調査）は、08年度実績比▲21・3%の大幅減少となった。企業収益の改善が遅れていることなどから、設備投資に対する慎重姿勢が継続しており、製造業が同▲32・4%、非製造業も同▲15・7%減少した。一方、期初計画比では+2・2%の小幅上方修正となった。

千葉県の11月の有効求人倍率（季調値）は、0・41倍（前月比▲0・1ポイント）と4か月ぶりに悪化した。11月の新規求人数（原数値）が1万4730人と前年同月比で▲15・0%減少した一方で、新規求職者数は1万8774人、同+24・3%増加となるなど、県内の雇用情勢は依然厳しい状況にある。

（福田）

■ 鉱工業生産・在庫指数（季節調整済、千葉県2005年=100、全国2005年=100）



消費関連

県内の個人消費動向を見ると、一部では政府の経済対策（エコカー減税、エコポイントの導入）の効果が現れているものの、厳しい雇用・所得環境が続いており、全体としては盛り上がりには乏しい状態にある。百貨店の年末年始商戦についても、クリスマスケーキやおせち料理等の食料品は堅調であったが、衣料品や高額品（宝飾品、ブランド品等）は依然不振が続いている。

09年10～12月期の消費関連業種の業況判断BSIは、小売（▲13・0）、ホテル・旅館（▲7・7）、サービス（▲16・0）の3業種すべてで「悪化」超となっている。

南房総地域の観光地では、東京湾アクアラインの通行料金を含めた高速道路料金の一斉値下げの効果により、自動車通行台数は増加したものの、一部のレジャー施設や宿泊施設は、日並びの悪さなどの影響を受けて、客数や売り上げが減少している。また、千葉市内のホテルでも、年末年始の日並びの悪さから、開業以来、初めて12月31日および1月1日が満室にならなかった先もあった。

最近の主な業種別の動向は次のとおり。

●百貨店（主要7か店）

県内百貨店の09年10～12月期の売り上げは前年同期比▲8・7%減少した。月別には、

10月…前年同月比▲9・9%↓11月…同▲12・2%↓12月…同▲5・0%と各月とも前年を下回った。

12月のマイナス幅縮小の要因は、例年明けに実施する冬物値下げセールや福袋の販売を年末に前倒した先があったため。もともと、福袋は、消費者の節約志向を踏まえた品ぞろえをしたにもかかわらず、売れ行きは低調で、一部には売れ残った先もあった。

部門別では、衣料品はユニクロなどファストファッションに客足を奪われている。また、宝飾など高額品は依然不振が続いており、回復には程遠い状態である。こうした中、内食化や巣ごもりの影響もあり、クリスマスケーキやおせち料理などの食料品は堅調であった。

先行きの消費動向についても、特別目新しい材料もないことから短期間での回復は望めないとして、厳しい状況が続くと見ている先が多い。

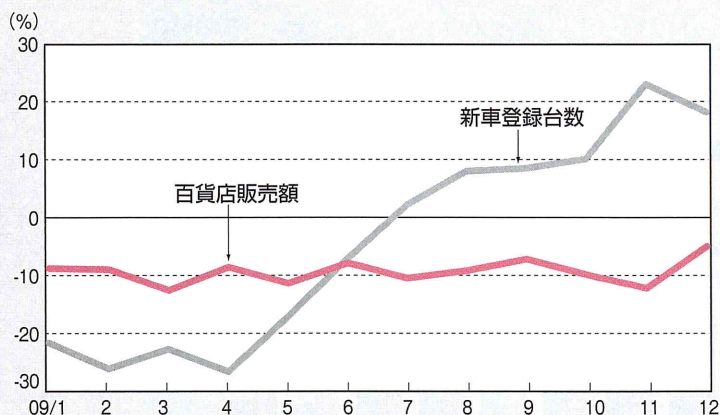
●自動車販売

09年10～12月期の県内の乗用車新車登録台数は、前年同期比+17・1%増加した。月別には10月…前年同月比+10・2%↓11月…同+23・1%↓12月…同+18・3%と、全月で前年を大幅に上回った。これは、エコカー減税の効果でハイブリッド車の売れ行きがき

わめて好調であったことが牽引している。もっとも、県内大手自動車ディーラーでは、エコカー減税の延長がほぼ確定したことで（10年3月末→10年9月末）、期待していたほどの伸びは見られなかったとしている。

先行きの販売動向についても、引き続きハイブリッド車が牽引役となり、堅調に推移するとの声が聞かれた。（古川）

■ 千葉県内百貨店販売額および新車登録台数伸び率（対前年同月比）



（出所）ちばぎん総合研究所、千葉トヨタ自動車、全軽自協

■住宅・建設

県内の09年10～12月の新設住宅着工戸数は、前年同期比▲31・7%減少した。なかでも、雇用・賃金情勢の悪化による住宅需要の低迷や、デベロッパーの破たん・資金繰り悪化などの影響で新規供給が大幅に抑制されている分譲マンションの着工戸数は、09年6月に続き

などから、前年同期比▲19・1%減少となった。10年度の公共工事の当初予算案が09年度比で▲18・3%削減されていることから、国発注事業減少の影響による県内案件のさらなる競争激化が懸念されている。

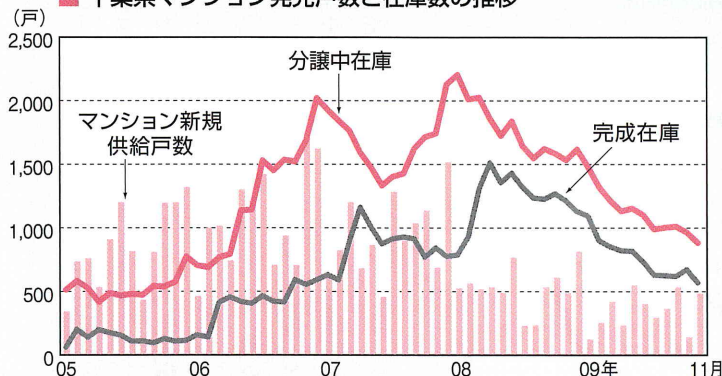
(福田)

11月にも再びゼロ戸となるなど、同▲88・4%減少と低迷している。

経営体力のある大手デベロッパー等では用地取得を再開しているが、需要が底堅い都内や駅前好立地に限定しているため、県内においては地価の下落に歯止めがかかっていない。

また、10～12月期の県内における公共工事請負額は、09年度補正予算の執行停止の影響等で国発注の工事が減少したことに加え、独立行政法人等で前年度の反動減があったこと

■千葉県マンション発売戸数と在庫数の推移



■建材

県内の生コンクリート主要協同組合(北部・西部・中央)の09年10～12月期の出荷量は、民間建設需要の低迷が続く、前年同期比▲45・4%減少となった。出荷量は、07年4～6月期以降、11四半期連続で前年を下回り、落ち込み幅も同期間で最大となるなど、生コンの需要環境は一段と厳しさを増している。

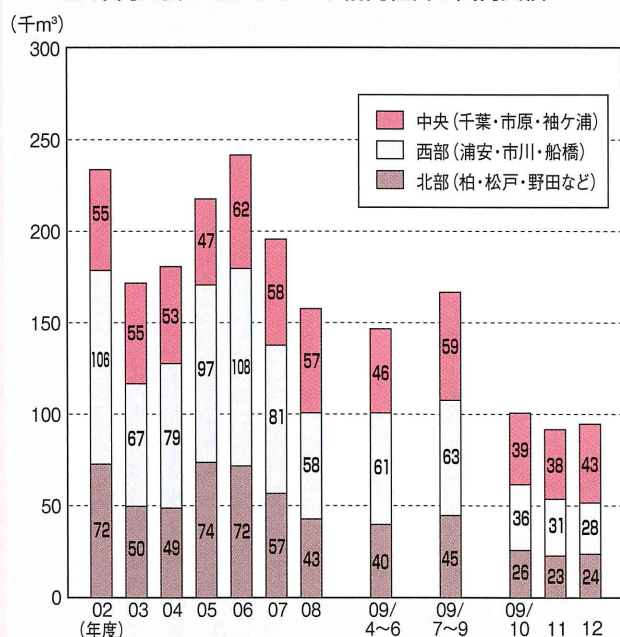
中央協組では、需要の低迷で1工場当たりの出荷量が大幅に落ち込んだ結果、直近ピークであった04年の

5・2万³mから09年には2・5万³mにまで減少しており、多くの業者で利益確保が難しい状況に陥っている。

10年度の需要想定は、公共工事予算の削減に加え、マンション等の民間住宅投資の回復も緩やかなものにとどまるとの見通しから、北部・西部協組では09年度比で微増(08年度比では▲2割超の減)、公共工事の割合が他協組に比べて高い中央協組では同▲15%減としている。

(福田)

■県内主要生コンクリート協同組合の出荷実績



鉄鋼

09年10～12月期の県内高炉メーカー2社（新日本製鐵、JFEスチール）の粗鋼生産量は、外需を中心に回復が進み、324・8万t、前年同期比▲2・4%と落ち込み幅が大幅に縮小した。

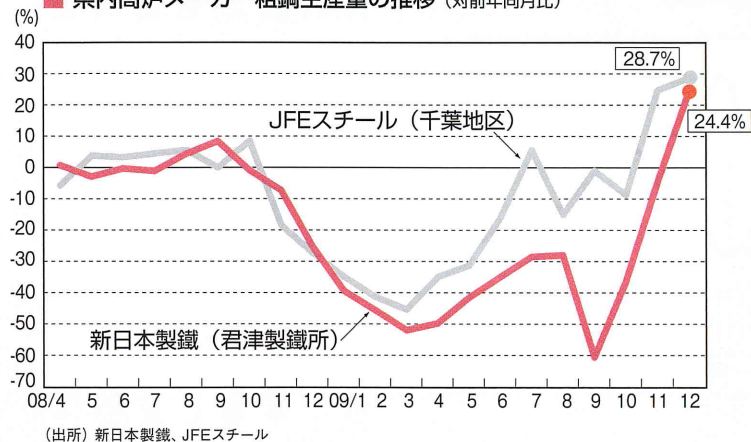
国内高炉メーカーでは、中国を中心とした鋼材輸出が高水準で推移していることに加え、国内でも自動車など製造業向けの需要が回復傾向にあることから、フル操業が続いていた前年の9割の水準にまで回復している。

一方で、輸出主導の回復と国内建築鋼材需要の低迷で輸出比率が高まっていることから、円高の影響や原材料価格の高騰などで収益圧迫懸念が高まっている。県内鉄鋼・非鉄金属（中小企業を中心）では、公共工事予算の凍結などもあり、建設需要期にあたる9月以降

も需要が縮小している。末端鋼材需要が極端に少ない中、流通価格が鋼材メーカーの販売価格を下回る状況が散見されるなど市況悪化も続いているため、鋼材流通・加工業者では赤字に陥っている先が大半となっている模様。

（福田）

■ 県内高炉メーカー粗鋼生産量の推移（対前年同月比）



石油・化学

WTI原油価格が上昇基調を続けているため、石化製品の原料となるナフサは、09年10～12月期の価格（国産）が4万5000円/ℓ（7～9月期比+9・8%）となる見込み。

大手石油化学各社は、

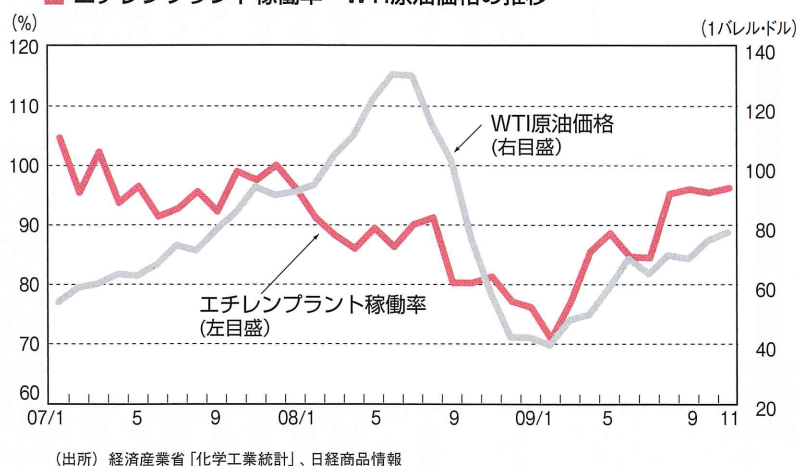
中国などの東アジア向けの需要が好調であり、エチレン減産を緩和している。エチレンプラントの稼働率を見ると（図表を参照）、09年2月には69・7%まで落ち込んだが、その後上昇を続け、9月は95・9%、10月には95・3%、11月には96・1%まで回復した。

しかし、現在の回復の主要因が、外需頼みであり、為替相場の動向に影響されることが懸念される。また、内需向けは期待できないなどから、石油・化学の10～12月期の業況B

SIは2・3（前回比▲6・4）、同10年1～3月期見通しは▲6・8（実績比▲9・1）と先行きは不透明感が増している。

（松本）

■ エチレンプラント稼働率・WTI原油価格の推移



食料品

県内食料品メーカーの09年10～12月期の収益BSIは▲5・0（前同比▲5・0）と悪化した。

食用油業界や製粉業界では、09年中は原料価格が比較的安定的に推移したことや、消費者の節約志向の高まりなどを受けて、川下の食料品メーカーからの値下げ圧力が強まっております、相次いで製品価格を引き下げている。その結果、販売価格BSIは「低下」超が続いている（09年1～3月期…▲9・1↓4～6月期…▲6・6↓7～9月期…▲4・3↓10～12月期…▲11・3）。なかでも、内食化の進展で一般家庭向けは堅調であるのに対して、外食産業不振の影響が大きい業務用の落ち込みが激しい。

（古川）

漁業

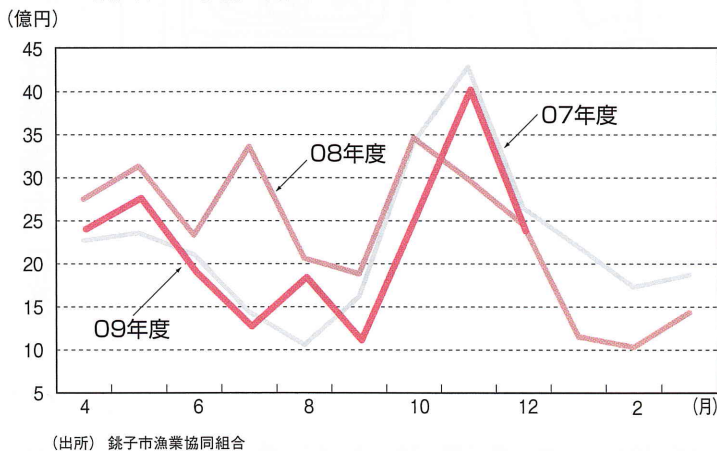
銚子漁港の09年10～12月期の水揚げ状況を見ると、数量（10万6993t…前年同期比+17・1%）は4四半期ぶりに前年を上回ったが、単価が下落したため（08年10～12月期…97円/kg↓09年10～12月期…82円/kg、金額（88・0億円…同▲1・0%）は5四半期連続で前年を割り込んだ。

水揚げ量が前年比2ケタ増となった要因は、サンマ（6万328t…同+27・2%）とイワシ（8276t…同+46・9%）の水揚げ量が前年を大幅に上回ったため。年間を通して見ると、銚子漁港の09年の水揚げ量は22万3739t（前年比▲11・2%）で4年連続日本一を達成した。10月までは水揚げ量が少なく、漁業関係者から「連続日本一の記録も途絶えるのでは」との

声がかかれたが、それ以降にサバがまとまって水揚げされ、高水準で安定していたサンマも合わせ、急激な追い込みを見せた。一方、金額は21年ぶりに300億円を突破した08年を▲22・6%下回り、234億円（全国順位6位、前年と同順位）にとどまった。

（古川）

■ 銚子漁港の水揚げ額



農業

09年10～11月の千葉県産主要野菜10品目（甘藷、ネギ、トマト、ニンジン、ダイコン、ホウレンソウ、キヤベツ、キュウリ、カブ、ゴボウ）の東京中央卸売市場への出荷量は、数量が3万8619tで前年同期比+10・6%増加したが、平均単価が99円/kgと同▲22・7%下落したため、出荷金額は36・9億円と同▲15・6%減少した。

平均単価下落の要因は、景気低迷に伴う消費不振のほか、10月以降、好天と温暖な気候が続いたため、ダイコンやキャベツなど冬野菜が豊作となり、出荷が集中したことによる。なかでもキャベツは、鍋ものを中心に需要が低迷し、平均単価が48円/kg（同▲38・5%）と大幅に下落した。

もつとも、消費者の財布の紐は固く、値下げが消費増加に直結していない。そのため、量販店では、従来は丸ごと1個で販売していた野菜を小さくカットし、ワンコインで販売するなどの工夫で消費者の節約志向の高まりに対応している。

（古川）